

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	歴史研究所維持管理事業	会計	一般会計	事業No.	771	施策順No.	61-003
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-8-10-1		
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり			課等名	歴史研究所		
施策	61 地域資源の発見			事業期間	開始	15	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民 研究者等						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田市の人口(人) (H22.10.1推計人口)		106630	105691	105036	107000	
	意図	市民、研究者等が地域資源を発見し、活用できる拠点として、研究所施設の維持管理、充実を図る。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	相談・資料照会等数(単年度)	624	611	1014	700	1113	720	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		一般来所者が減少したもの(757→705)、調査・史料相談が増加し(106→158)、県内外から地域史関連の問い合わせ先として認知されつつある						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	調査研究によって整理された飯田・下伊那地域の資料を保存・公開し、市民、研究者等の積極的な活用に資するため、施設の維持管理、利便の向上を図る。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 歴史研究所の運営 2 歴史研究所の施設管理 (1)施設の市民・研究者等利用 (2)ホームページの維持・更新 (3)収蔵史料目録の公開	1 研究部会議 2 (1)開所日数 利用者数 (2)HPアクセス・更新数 (3)公開準備が整った目録数	1 8回 2 (1)249日 1,113人 (2)10,886回 (3)12件
23年度実施計画	1 歴史研究所の運営 2 歴史研究所の施設管理 (1)施設の市民・研究者等利用 (2)ホームページの維持・更新 (3)収蔵史料目録の公開準備	1 研究部会議 2 (1)開所日数 利用者数 (2)HPアクセス・更新数 (3)公開する目録数	1 10回 2 (1)248日 800人 (2)9,800回 (3)10件

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金				特定財源内訳、補足事項	(そ) 諸収入 85
		県支出金					
		起債					
		その他	87	85	85		
		一般財源	3,281	3,250	3,215		
	計 (A)	3,368	3,335	3,300			
	正規職員所要時間		2,200				
	臨時職員等所要時間						
	人件費計 (B)		7,867				
	トータルコスト A+B		11,202				

4 事業に対する市民や議会の意見

議会から歴史研究所事業に市民理解を深めることを求める意見あり。外部評価では、「歴史研究所の理念や活動について市民の間で十分理解されているとは必ずしも言いがたい。今後はこれまで以上に広報活動に力を入れ市民に分かりやすく説明しながら協働して事業を進めること、そうした不断の努力が説明責任を果たし社会に開かれた研究所としていくために求められている。」と指摘あり。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域資源が、見いだされる。	施策の成果指標又はムツ指標	見いだされた地域資源の数(累計)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう貢献しましたか	4年間の振り返り	・所蔵資料閲覧や各種広報を充実させることによって、市民、研究者等に地域資源を発見する機会を提供した。		
	後期に向けた課題	・保有する史料の増加やアーカイブズ活動の進展、閲覧者の利便性向上など、事業成果公開のためのスペースとして研究所が手狭になりつつある。またサービスの低下を防ぐための経費(機器の保守等)も増加が見込まれる。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・いいだFM・ホームページ・歴研ニュース・広報いいだ・新聞掲示等全般的な広報の調整を、所内「広報班会議」で毎月検討を続けている。 ・資料調査に利用しやすい環境作りを心かけ、随時閲覧コーナーの配置や書籍配架換えを実施した。		
	後期に向けた課題	・公開可能な歴史資料に関する情報発信や、アーカイブズに関する今後の取組みに関して、関連部署との協議を進めていく。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・書架、保管庫、長机、庁用車などは原則リサイクル・リユースを活用し、情報提供サービス・史料調査作業の施設整備補完を行った。 ・旧南信濃役場文書収蔵庫における遮光カーテンは上郷保健センター廃棄物のリユースで対応した。		
	後期に向けた課題	・公文書管理法の施行によって、地方公共団体の文書管理についても方向を示すべき時期が迫っている ・科学研究費等外部資金を獲得し、カメラなどの機器更新を行う。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・史料資料の寄贈経過、管理、相談体制等の確保として必要		
	後期に向けた課題	・特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①大学関係者や研究者等が多様な主体となり、研究所が情報提供することにより、主体からフィードバックされる情報、または主体の保有するネットワークからの働きかけを得られる②研究所が所有する歴史資料による、閲覧・掲載申請等の史料相談を充実させる		
	後期に向けた課題	①多様な主体による自発的な研究活動②公開資料の検索システム構築		
全体を通じて	4年間の振り返り	・新聞社等の報道機関や市民からの電話問い合わせの際、「歴史研究所なら分かるのでは」といった言葉が多数聞かれるようになってきた。研究所の存在が認知されてきた。		
	後期に向けた課題	・研究所の機能を再確認し関係部署との調整のうえ「第3期中期計画」の策定を行う。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------